



3月11日の北海道新聞の記事を
紹介します。

ファミリーホームにも示唆 札幌で初 今問題に なっている周産期への対応



北川会長をはじめとした札幌の「麦の子会」
で右記の事業が開始されました。

「麦の子会」は、障がい児・者のケアや居場所をはじめとしてFHや里親さんも包摂。放課後デイサービス、学童保育、子ども達への学習サービスなど地域の子ども福祉や障がい児・者への支援をしている法人です。

最近熊本県で、産婦の氏名を明かさない出産が、新聞紙上に掲載されました。またあるFHでは、中学生が妊娠し、出産したその母子を措置されているという例もあります。これからは、そんな子ども達もFHに預けられることも考えられます。

朝刊

2022年03月11日 配信

北海道新聞

住居ない妊産婦支援

札幌道内初の施設開設

経済的な事情などで住居がない産前産後の女性を受け入れる居住スペース「リア」が10日、札幌市東区SOSネットワーク(東京)の研修を受けた助産師やソーシャルワーカーが入居者の相談に乗りながら、女性の自立を支援する。運営する社会福祉法人「麦の子会(東区)」によると、こうした施設は道内初。妊娠後、仕事が続けられなくなったり、家に居場所がなくなったりして、住む場所を失った女性らが対象。原則、妊娠34週以降から出産後2カ月まで滞在できる。仮名でも利用できる。



が、18歳未満は保護者の同意が必要。
「リア」は宿泊できる個室

住居のない産前産後の女性を受け入れる「リア」の室内
2部屋のほか、共用のキッチンや浴室、トイレを備える。滞在費は無料だが、食費は自己負担となる。助産師らは妊娠や出産、産後の生活に関する相談に乗り、必要に応じて産婦人科に同行する。生活保護や特別養子縁組を希望する妊婦には申請手続きを助言する。
麦の子会は昨年6月、妊娠に関する相談に電話やメ

ールで応じる事業「にんしんSOSさっぽろ」を開始。今年2月末までに道内外から延べ441件の相談があった。病院に行ったことがないまま出産を間近に控えた妊婦もいたという。
「リア」で10日行われた開所式で北川聡子理事長は「孤立した女性をサポートできる環境を整えたい」と話した。問い合わせは、にんしんSOSさっぽろ800・4621・7722へ。
(岩崎志帆)